

事業所における自己評価結果表

公表：令和6年3月29日

事業所名：児童発達支援 NICONICO

対象人数（職員）7人 回答者数7人 回収100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき 点を踏まえた改善 内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	1		
	②	職員の配置数は適切である	6	0	1		
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	3	3	小さな段差は適宜補修している	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	0		
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0	0		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	1		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	5	0		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	3		今後検討する
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	週1回職員会議・研修等を行っている	より職員の意識を高める為、研修の機会を増やしていきたい
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	0	保護者懇談を実施してニーズをお聞きし、お子様の状況を把握したうえで課題を分析し、個別支援計画を作成している	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2	0	独自のアセスメントツールにて行っている	今後、アセスメントツールを増やして

						使用していく予定	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	0	個別支援計画をもとに日々の療育プログラムを考案している	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	職員全員がプログラム会議に参加し、意見を出し合って決めている	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	0		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	0		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	朝礼で打合わせしている	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	0	支援終了後にカンファレンスを行って振り返りをし、記録に残している	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	概ね半年毎にモニタリングを行い、計画の見直しをしている	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	0	サービス担当者会議は行われなかった	今後実施された場合は、児童発達支援管理責任者が参画する
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1	0	関係機関の方に見学いただき、連携を取っている	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	5	1	医療的ケアを必要とする子どもの利用はなかった	
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	4	2		
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援	7	0	0	幼稚園と連携を取り、見学・会議を行い相	

	内容等の情報共有と相互理解を図っている				互理解を図った	
②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	0	就園時に各小学校へ向けて「就学支援シート」を作成して送付した	
②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	0	奈良県障がい者総合支援センターの子ども地域支援事業から作業療法士に来てもらい、助言をいただいた	
②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	1	4		
②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	0	0		
③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	いつでも保護者が職員に相談できる環境作りを意識している	
③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7	0	0	日々、保護者からの相談をお聞きし、適宜お答えしている 又、概ね月1回保護者講座を実施している	
③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0	契約時、報酬改定時に保護者に向けて説明を行った	
③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	0	保護者懇談を実施して、支援計画の説明を行っている	
③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0	日々の小さなお悩みから解決できるよう、保護者と職員との関係性を構築することに尽力している	
③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	0	保護者室を設け、療育の時間に保護者同士で交流いただいている	
③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0	契約時に説明するとともに、日頃から相談しやすい環境作りを行っている	

保護者への説明責任等

非常時等の対応	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	HUG システムを使用して随時発信している	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	0		
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	子どもの特性に応じて、随時支援している	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	3		
	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	0	クラスにより保護者も一緒に避難訓練に参加いただいた	全クラスで親子実施できるよう計画している
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0		
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	0	契約時に確認し、全職員が周知している	
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3	0			
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	週1回職員会議で実施している		
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	0	県主催の研修に参加し、振返り研修で全職員が共有している		
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	3	2	身体拘束を要する子どもの利用はなかった		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。